

トヨタ生産方式の専門分野を2講座で学ぶ (講座選択可)

実践トヨタ生産方式”専修”講座

- 講義及び”実践指導”による本質徹底理解
- 受講者ニーズによる2講座の”選択受講可”
- 全2講座受講者にはIE協会より”修了証書授与”

Fコース：《自工程品質保証・生産準備》 日立建機(株) 龍ヶ崎工場

期日：2012年2月6日(月)【座学】・7日(火)【工場実習】

Gコース《生販の仕組み改善》 (株)中村屋 食品工場

期日：2012年2月28日(火)【座学・工場実習】

指導講師：アクティブビジネス 代表取締役社長 太田伸一郎 氏



日本インダストリアル・エンジニアリング協会

本シリーズの特長

『トヨタ生産方式の「真」の目的、本質、モノの見方/考え方の徹底理解』

トヨタ生産方式の目的は、「徹底したムダの排（廃）除」にあるが、その様な活動が、自律的、継続的、組織的、計画的且つ徹底的に、進（深）化して行くことが、企業としては重要であり、その為には、経営トップのビジョン及びリーダーシップ、トヨタ生産方式の真の目的及び基本理念による、正しいモノの見方及び考え方の理解、その上での意識改革、人材育成、即ち、教育訓練の仕組みづくり（モノづくりは人づくり）、更には、改善活動推進の仕組みづくりによる、活動の定着（人づくりは風土づくり）が重要となる。

この様なトヨタ生産方式の本質を、十分に理解せず、単に学問、知識、技法及び手法等に主眼を置き、それが導入の主目的と誤認し、更には、トヨタ生産方式を、経営理念及び経営システムとして、捉えていない活動は、推進上大きな問題を来たすこととなる。

また、トヨタ生産方式は、実証的に進（深）化してきた、歴史的経緯があり、理論主体の講義のみでは、本質を理解できない面も多々あり、現地現物にての実践指導が必須となる。

本講座に於いては、これ等の点に関し、本質面からの講義及び現地現物による、実践指導の徹底にて、トヨタ生産方式の基本精神である、「顧客第一、現地現物、地道に愚直に、即実践」を体得させる。

本講座受講のメリット

- 本質面よりの講義による、トヨタ生産方式の基本理念の正しい理解
- 現地現物による、即効性のある“熱血”現場実践指導体験
- テキスト、映像資料、現場にての率先垂範及び図解による具体的な指導

実習工場紹介

Fコース：日立建機(株) 龍ヶ崎工場 (茨城県龍ヶ崎市)

25万㎡の敷地を擁する龍ヶ崎工場は、ミニクラスから小型、中型及び大型クラスまでのホイールローダを生産しています。また場内には全長720m、1000tクラスの製品にも対応できる、テストコース及び登坂試験場を併設。

Gコース：(株)中村屋 食品工場 (神奈川県海老名市)

日本のカレー文化、発祥「新宿 中村屋」の神奈川事業所内にあり、「インドカリースパイシーチキン」等の市販レトルト食品や外食チェーン用カレーソース等の業務用冷凍食品を製造しております。

講師紹介

アクティブビジネス 代表取締役社長 太田 伸一郎 氏

大手自動車メーカーにて、生産技術部門（エンジンの精密加工及び組立）及び生産管理部門、大手エレクトロニクスメーカーにて、生産技術部門（半導体）及び経営企画部門（生産戦略及び設備投資）に勤務後、欧米の航空機、自動車、機械及び電機産業等にて、「トヨタ生産方式」を指導、多大な成果を挙げ、2000年帰国。

現在、経営コンサルタントとして、主に、国内の素材、機械、電機及び部品産業等に対し、指導を展開中。

特に、「モノづくりの基盤」である、「生産技術」分野にての、卓越した実務的エンジニアリング、及び「経営システム」としての「トヨタ生産方式」を、共に高い見地から指導出来る、コンサルタントの一人として、国内外にて、高く評価されている。

《プログラム》

F コ ー ス ／ 2 日 間	<p>専修講座①（座学）</p> <p>1. 《自工程品質保証》</p> <p>トヨタ生産方式を導入しているが、「品質保証に関し、今一つ成果が挙がらない。」、という声を良く聞くが、その問題点は、表面的な成果を期待し、「よい品よい考え」と言う、トヨタ生産方式に於ける、品質保証の基本理念を、忘れていた点にある。本講座にては、その点に関し詳細に指導する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●品質を工程でつくり込む（自工程で保証すべき品質特性） ●不良の後工程流失防止（検査基準、作業要領、限度見本及びポカヨケ） ●なぜ5回による真因対策（現地現物による、事実に基づく真因追求及びさらし台の運用等） <p>2. 《生産準備》</p> <p>トヨタ生産方式を導入し、「現場レベルにては、一定の成果が得られたが、更に次のステップへなかなか進めない。」、という声を良く聞くが、それに対処する為には、生産技術面、生産設計面、更には原価企画等迄、踏み込んでいない点が挙げられる。</p> <p>本講座にては、その点に関し詳細に指導する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●生産準備の目的及び推進要領（真の量産化技術を指向することの重要性） ●原価企画（原価のつくり込み）と生産準備（改善のフロントローディング） ●工場及び設備計画（設備投資計画、レイアウト計画及び物流計画等） ●真の生産技術部門の任務確立（生産設計、工法開発及び工程設計等） 	<p>2月6日 (月) (座学)</p> <p>会場：日立建機 龍ヶ崎工場</p>
	<p>《自工程品質保証及び生産準備》（工場実習）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●前日に講義された、トヨタ生産方式による、自工程品質保証及び生産準備の内容を、指導講師の下にて、現地現物による工場実習を実施。 ●参加者メンバーは、指導講師のアドバイスにより、生産現場にて、問題発見から問題解決までを、現地現物にて体験し、トヨタ生産方式のモノの見方及び考え方を、徹底的に理解し習得をする。 	<p>2月7日 (火) (工場実習)</p> <p>会場：日立建機 龍ヶ崎工場</p>
G コ ー ス	<p>専修講座②（座学及び工場実習）</p> <p>《トヨタ生産方式に於ける生販の仕組み改善》</p> <p>トヨタ生産方式を導入しているが、「今一つ成果が挙がらない。」、という声を良く聞くが、その問題点は、トヨタ生産方式を事業レベルにて、展開していない点にあり、その一つとして、生販の仕組み改善迄、踏み込んで推進していない点が挙げられる。</p> <p>本講座にては、その点に関し詳細に指導する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●販売及び生産部門の連携方法（情報伝達システムの仕組み化） ●販売及び生産計画の立案（予算編成時より生産迄の、時系列的な計画立案及び精度向上、内示及び確定の指示） ●モノと情報の流し方及び平準化生産 ●工場実習、グループ討議、質疑応答及びまとめ 	<p>2月28日 (火) (座学及び 工場実習)</p> <p>会場：(株)中村屋 食品工場</p>

若干の内容変更に関しては、御了承下さい。

注：Fコースでは安全靴と自社での作業着をご持参下さい。安全靴の無い方は事務局にご連絡下さい。

